

基本情報

病原体: ヒトT細胞白血病ウイルス1型 (Human T-cell leukemia virus type 1: HTLV-1)

感染経路: HTLV-1の主な感染経路は母乳感染だと考えられている。

感染者数: 推定キャリア数約82万人(2016年度時点)

症状:

- ・HTLV-1感染者(キャリア)は、多くの場合無症状である。95%は生涯関連疾患を発症しない。
- ・しかし、成人T細胞白血病・リンパ腫(Adult T-cell leukemia: ATL)、HTLV-1関連脊髄症(HTLV-1 associated myelopathy: HAM)などの疾患を発症する場合がある。

検査:

- ・妊婦健康診査において、HTLV-1の抗体検査を実施。
- ・特定感染症検査等事業において、HTLV-1に関する保健所での検査への助成を行っている。

主なHTLV-1関連疾患

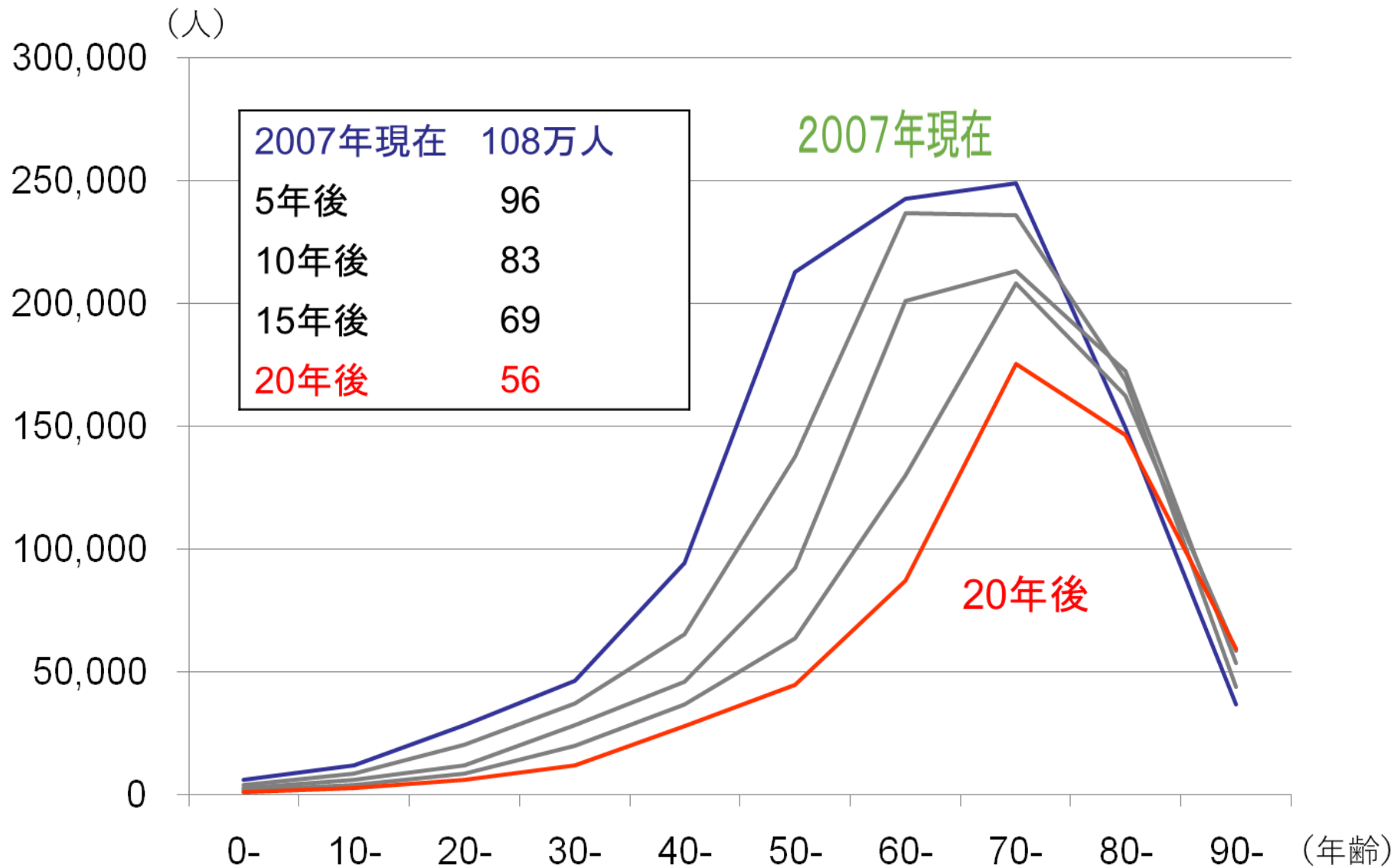
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)

- ・発症率5%。新規発症は、1,100人/年。
- ・血液腫瘍の中で最も予後不良なものの一つ。
- ・多剤併用化学療法では治癒できず、骨髄移植での治癒率も高くない。

HTLV-1関連脊髄症(HAM)

- ・日本の総罹患者数:約3,000人。2015年1月に指定難病に登録。
- ・脊髄が慢性炎症により傷害されるため、下肢のしびれ・違和感、排尿障害、易転倒等が起こる。

キャリア数の推移の将来予想



※献血データより推計

平成22年度厚生労働省山口班研究報告書より

前回 2006+2007

- 初回献血者 1,196,321 人
- 陽性者 (IF法による判定) 3,787 人 0.317 %



107.9万人と推定

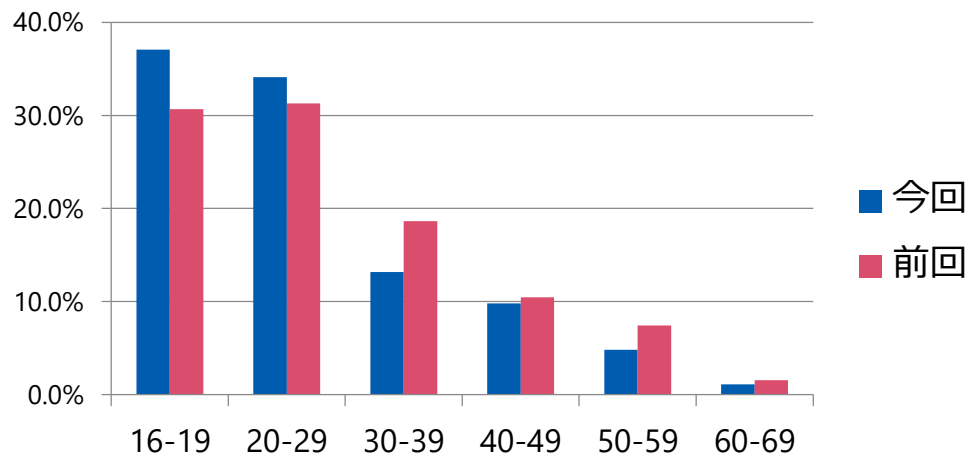
今回 2014+2015

- 初回献血者 753,289 人
- 陽性者 (WB法による判定) 864 人 0.115 %
- 判定保留者 (WB法による) 126 人 0.017 %



71.6~82万人と推定

対象初回献血者の年齢分布



HTLV-1水平感染疫学調査（2005-2011）

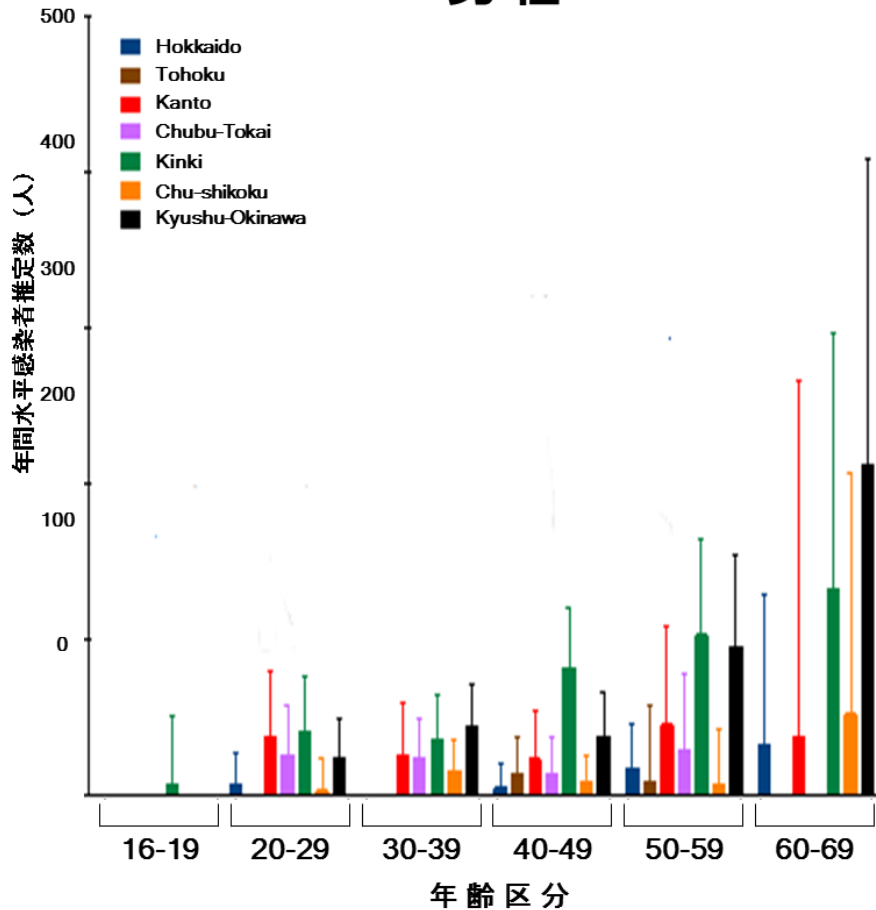
第1次HTLV-1水平感染疫学調査（2005-2011）献血者追跡調査

全国で年間 4,190名が新規感染していると推測

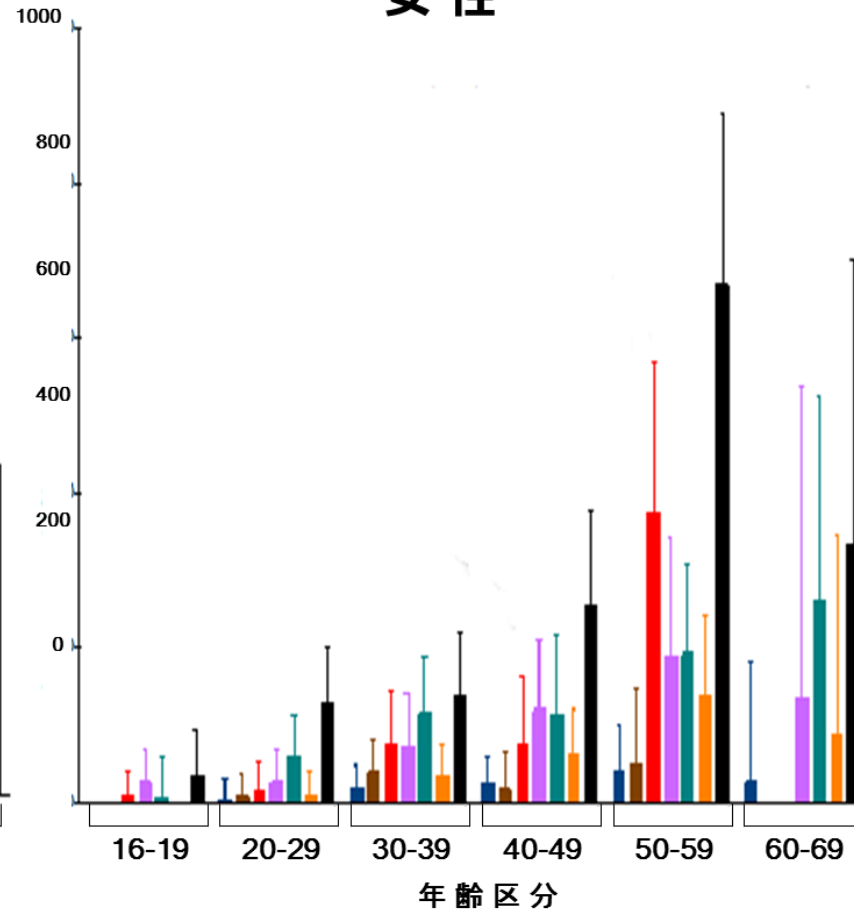
令和元年5月17日
第13回HTLV-1対策推進協
議会

資料1
相良参考人提出資料

男性



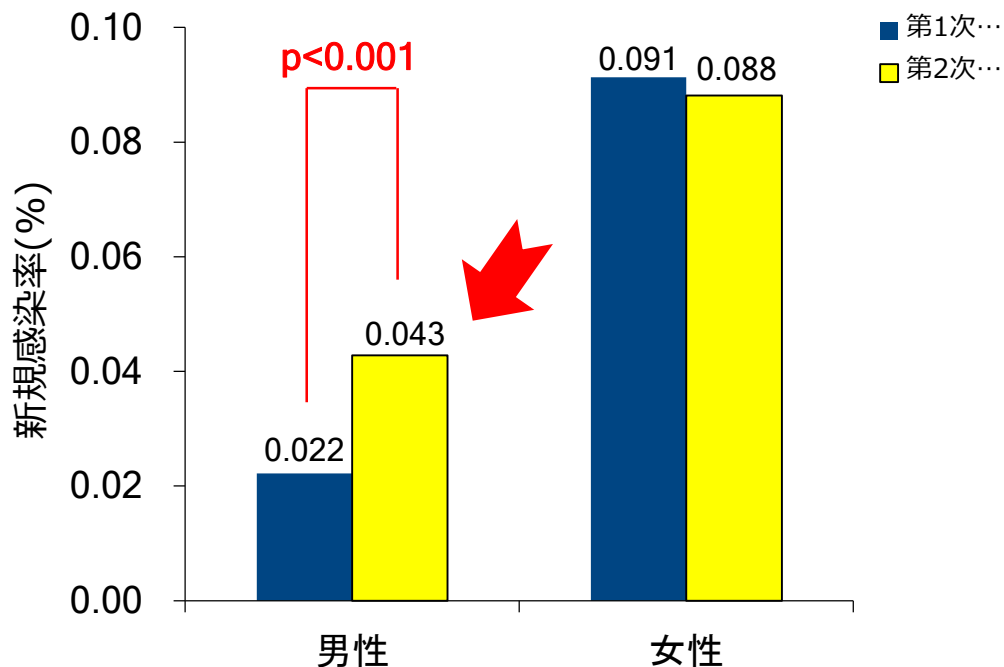
女性



第1次調査との比較 -男女別新規感染率-

令和元年5月17日
第13回HTLV-1対策推進協議会

資料1
相良参考人提出資料



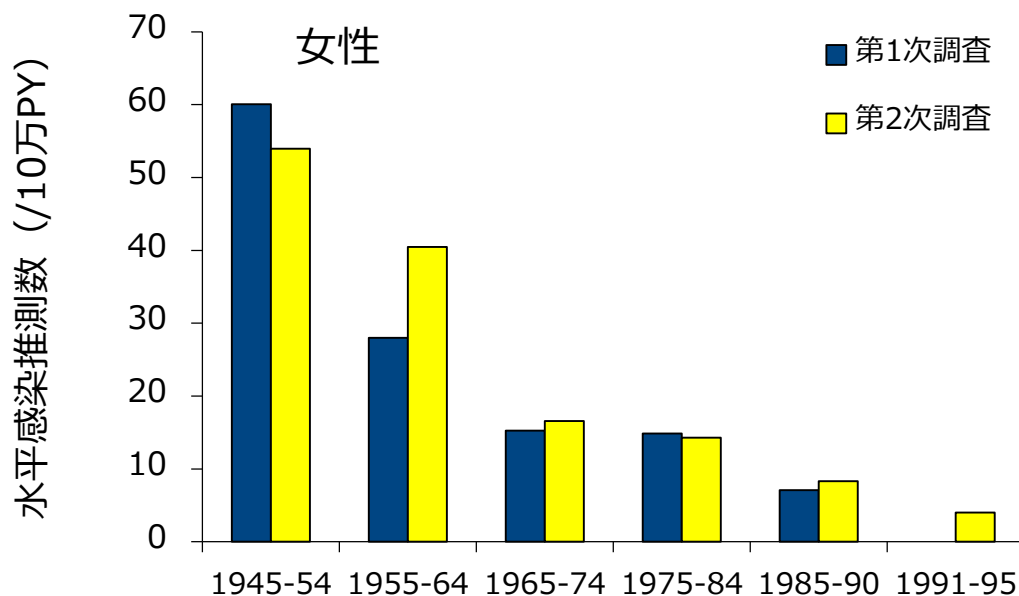
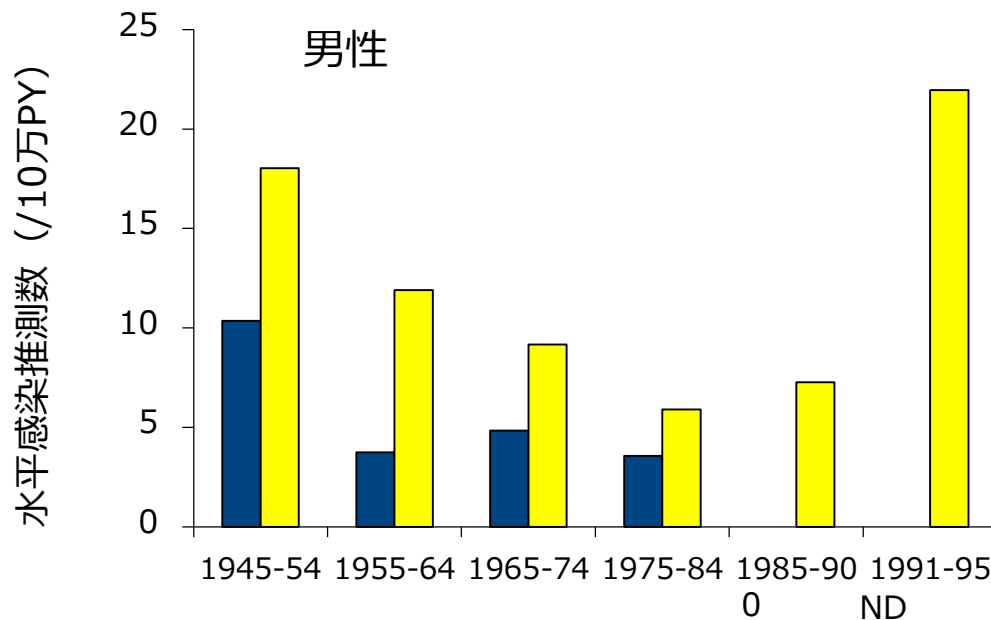
**第2次調査では、男性での
新規感染率が有意に上昇。
女性の新規感染率は高止まり
傾向。**

	第1次調査 (2005-2011年)			第2次調査 (2010-2016年)			p value	Odds Ratio	95% CI
	母集団	陽転者	陽転率	母集団	陽転者	陽転率			
男性	274,855	61	0.022%	289,746	124	0.043%	<0.001	1.928	1.405-2.651
女性	131,467	120	0.091%	119,173	105	0.088%	0.841	0.965	0.737-1.265

生年階層別男女別水平感染推測数（/10万PY）

資料1
相良参考人提出資料

令和元年5月17日
第13回HTLV-1対策
推進協議会



男女とも生年を遡るにつれて、推定新規感染者数が増加する

傾向があるが、男性はすべての生年階層で、水平感染推測数が前回調査時より増加した。

男性：1985-90生年群で増加に転じ、1991-95生年群では、他のどの生年群より多い推測数が得られた。

AYA世代男性の感染者増加は、二次的感染源の増加を意味し、感染拡大要因となりうる。